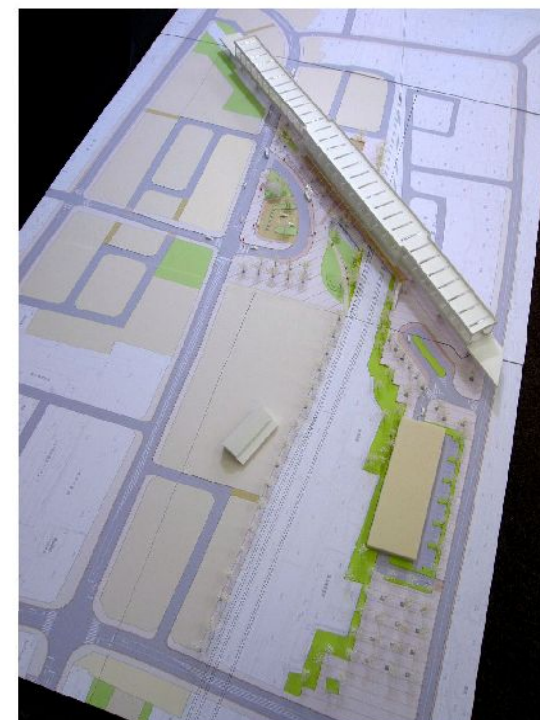
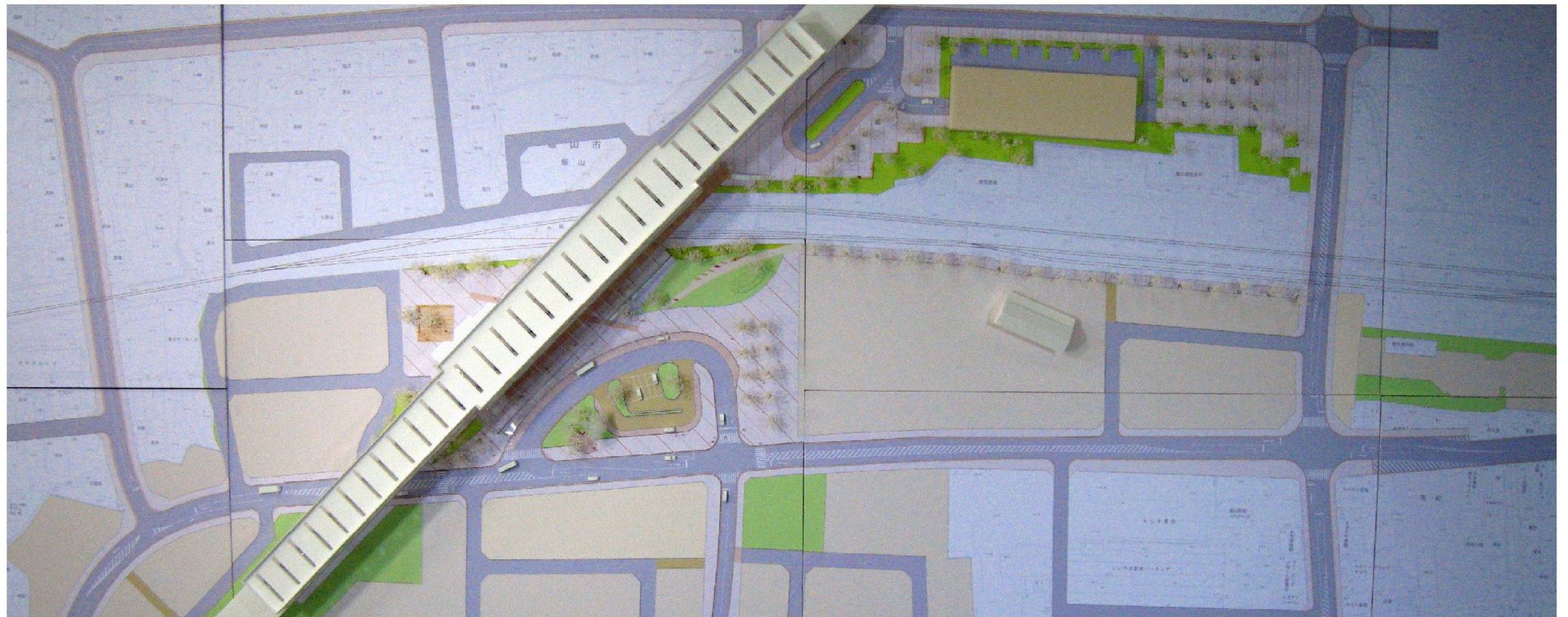




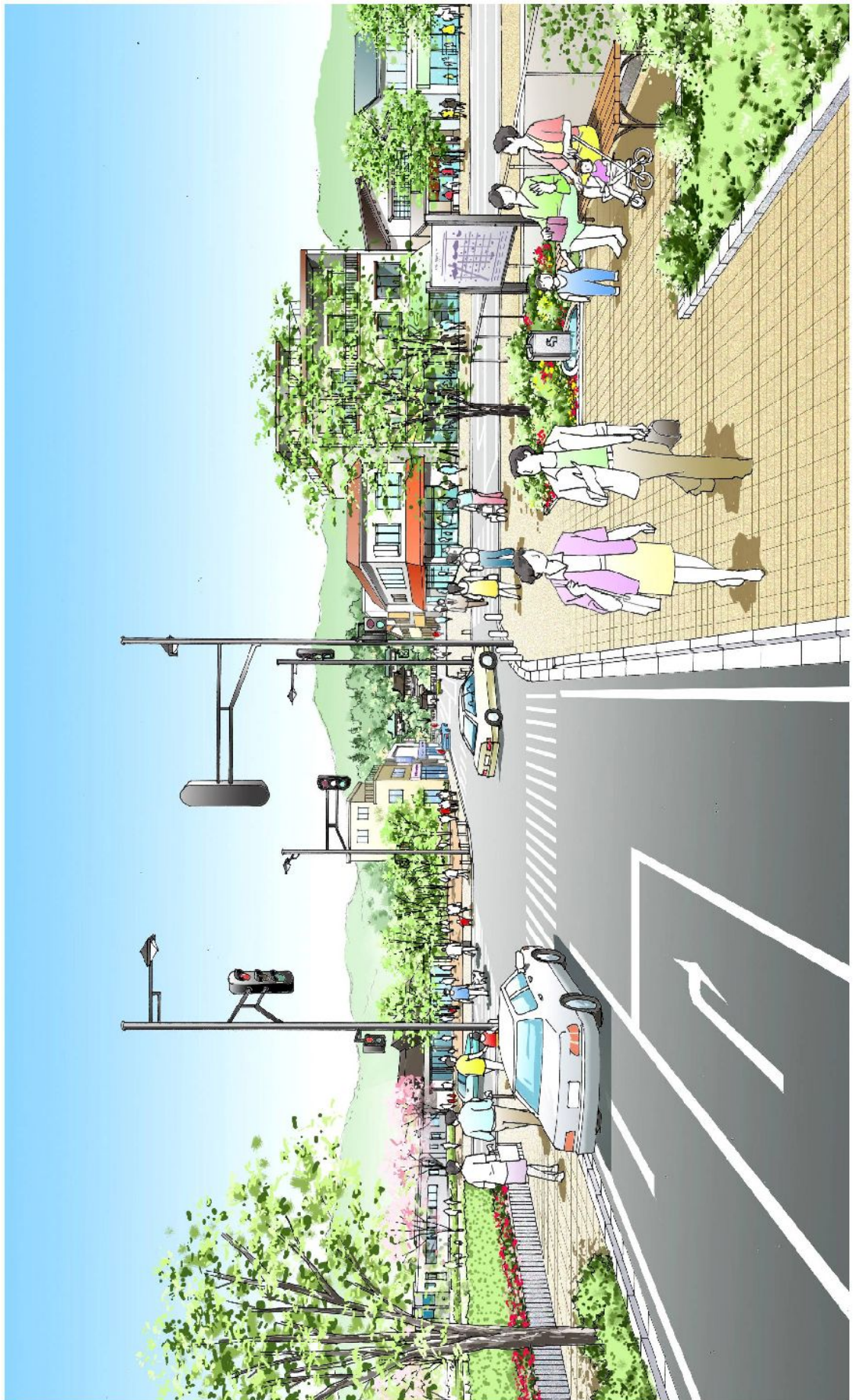
■図 整備イメージ.2 北陸新幹線飯山駅周辺地区の全体模型



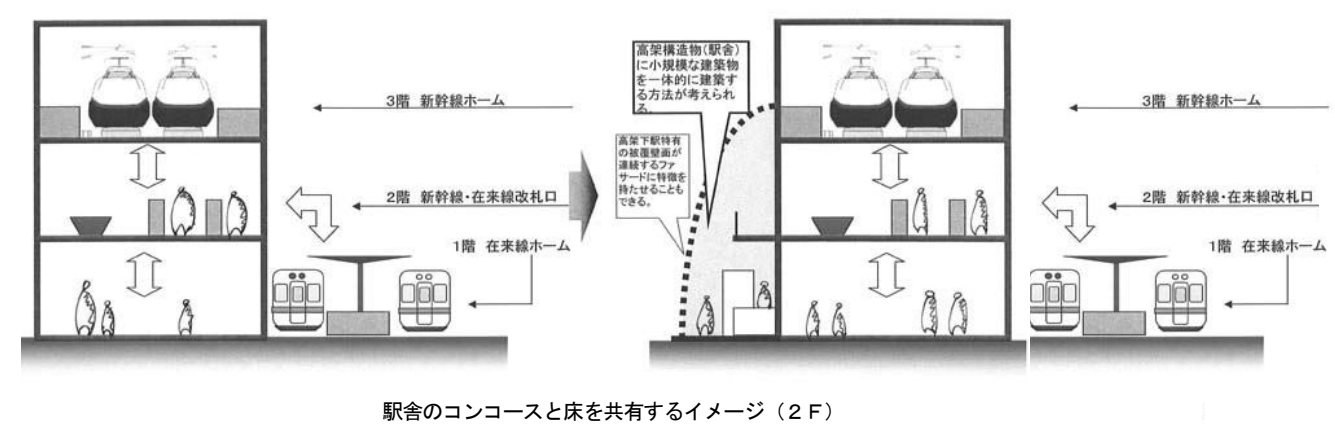
■図 整備イメージ.3 北陸新幹線飯山駅周辺地区の全体イメージパース



■図 整備イメージ.4 北陸新幹線飯山駅周辺地区 綱切線・斑尾線交差点イメージ

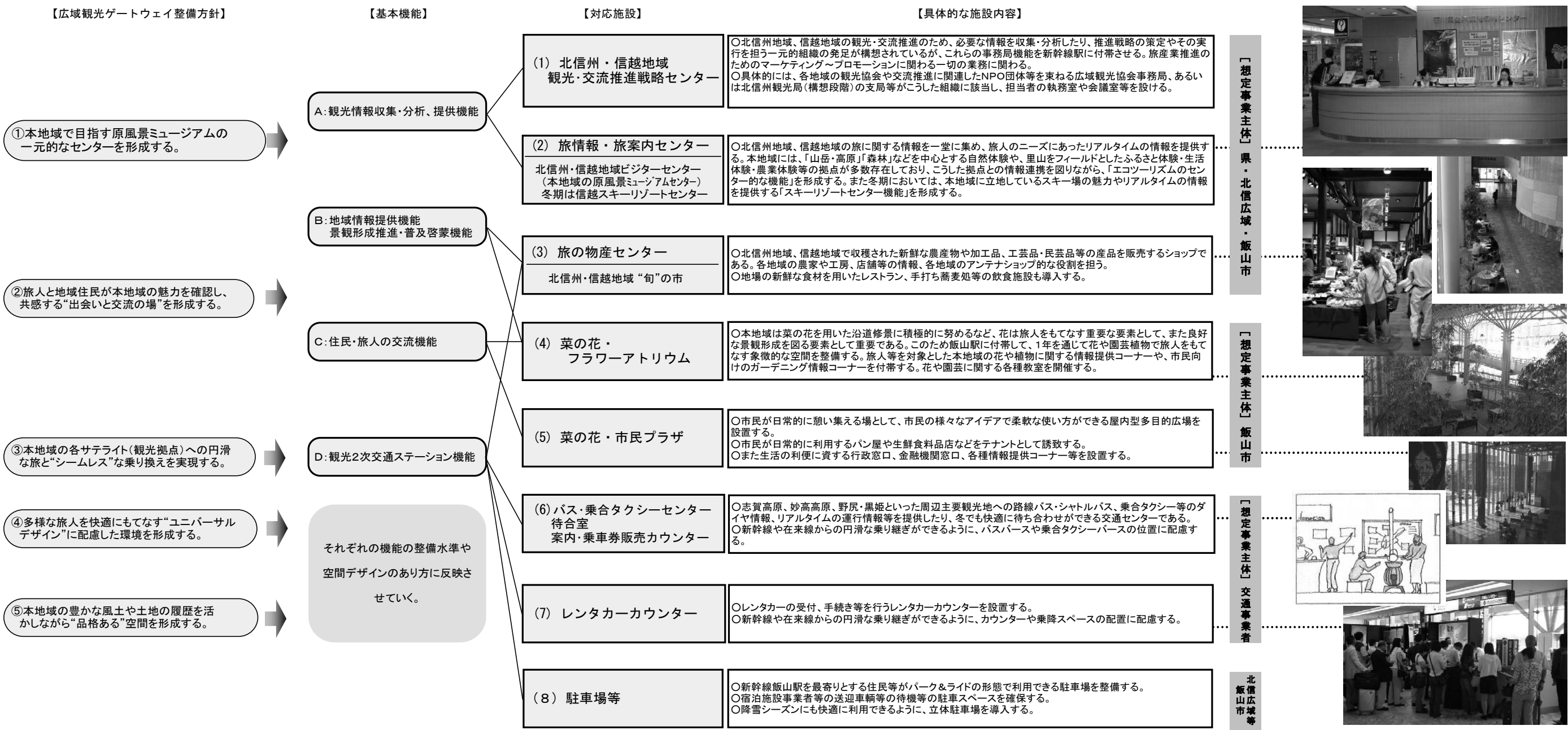


付属資料 1 旅の交流拠点機能構成の検討



■図表付.1 新幹線飯山駅に「アトリウム・ファサード」として合築する広域観光ゲートウェイ機能(旅の交流拠点機能)の基本構成

信州菜の花地域ウェルカムプランからの提案



1) 飯山駅乗降客数の推計・確認

観光客入込数に関するデータ

新幹線開通による新たな利用の発生に関する既存アンケート

飯山市総合都市交通体系調査

新幹線飯山駅の乗降観光客数の推計・確認

北陸新幹線の延伸により
需要が伸びることを考慮
すると

本地域の駅勢圏の主要観光地の延観光客数 約10,000千人

新幹線飯山駅の乗降観光客数 356千人 391千人

新幹線飯山駅の通勤・業務・買い物等目的の乗降客数の推計・確認

通勤目的 年間乗降客数 127.9千人／年 522人／日
買い物・業務目的 " 277.4千人／年 760人／日
遠距離利用 " 173.0千人／年 474人／日

2) 宿泊施設の送迎活動の現状・新幹線駅開業後の観光2次交通に関する意向調査

調査対象：北信連合6市町村＋信濃町の主要宿泊施設（ホテル・旅館）

送迎車輛保有状況

1 62.7% 9.6% 26.5% 1.2%

0% 50% 100%

保有している 送迎に应ぜず 自家用車等で対応 無回答

現在頻繁に利用する送迎駅

長野駅 23% 長岡駅 1% 越後湯沢駅 1% 飯山駅 2% 飯山線在来駅 4% 信越本線在来駅 5% 長野電鉄在来駅 28% 無回答 36% 鉄道利用しない 0%

新幹線開業後に送迎の可能性が高い駅

長野駅 20% 長岡駅 0% 越後湯沢駅 0% 飯山駅 54% 飯山線在来駅 4% 信越本線在来駅 5% 長野電鉄在来駅 8% 無回答 7% 鉄道利用しない 2%

飯山駅開業後に期待される観光2次交通

32.4% 56.8% 2.7% 5.42% 7%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

主要駅と起点とする路線バスやコミュニティバス 主要駅と主要観光施設を結ぶシャトルバス 一般的なタクシー 乗り合いタクシー レンタカー その他 なし 無回答

シャトルバス（その代替機能としての乗合タクシー）への期待大

3) 現飯山駅の公共交通機関の現状

路線バス・コミュニティバス

○飯山市のコミュニティバス「菜の花バス」
現在、福島線、西大滝線、深沢線、小菅線、市街地循環線、斑尾線の6路線が運行され、平日15～17回／日程度の発着がある。
○民間路線バス（信州バス、委託路線を含める）
野沢線、急行野沢温泉線など7路線が運行され、飯山駅発着は50回／日程度ある。

飯山駅前バス乗り場

タクシー

通常、飯山駅前にタクシーが数台待車している。

乗合タクシー

現状では導入されていない。

レンタカー

飯山駅近隣には、レンタカーステーションがない。
市内のレンタカー業者は駅から離れた場所に立地。

4) 新幹線飯山駅に導入する2次交通

○飯山市コミュニティバス・生活路線バス
市内の集落と結ぶ生活路線として今後も必要な交通機関である。新幹線飯山駅開業後も、20～30便／日の運行があると想定される（現状のコミュニティバスの運行本数＋民間バス会社の運行する生活路線バス）。

○主要路線バス、またはシーズン中に運行するシャトルバス
・野沢温泉・木島平方面（既設）
・斑尾方面（既設）
・野尻黒姫方面・妙高高原方面（新設）
・志賀高原方面（新設）

○乗合タクシー
宿泊施設の送迎バスを代替する機能や、信州菜の花地域等の多様な観光拠点（原風景ミュージアム（エコミュージアム）のサテライト）へのアクセス機能として、少人数の乗客でも効率的な運行が可能な乗合タクシーの導入を図る。
・野沢温泉・木島平方面
・斑尾方面
・野尻黒姫方面・妙高高原方面
・志賀高原方面
・その他、信濃平、なべくら高原森の家、カヤの平等

○タクシー

○レンタカー（ステーション）
冬期には積雪地仕様のタイヤを装備するなど本地域の気象特性にあわせたレンタカーのステーションを導入する。

○レンタサイクル（ステーション）

○パーソナルユース車輛（自家用車・業務用車輛）の駐車場
[対象者] ・新幹線や在来線（JR飯山線）利用の地域住民
・駅施設（「旅の交流拠点施設（合築想定）」を含む）利用の地域住民
[規模] 広域市町村との協議では、500台確保することとなっている。
ただし当面は200～300台で対応し、拡張させていく方法もある。

5) 3箇所の交通広場の機能分担 および 駅周辺地区の運行ルート

駅前広場
北信州の玄関口としての機能を担う中心的広場。広域の市町村、主要観光地と結ぶ公共交通機関の総合交通ターミナルと位置づける。

駅西広場
駅前広場の機能を補完する広場。またパーソナルユースの交通ターミナルとして位置づける。

駅南広場
周辺住民のための交通ターミナルとしていづける。

6) バスおよび乗合タクシー等の乗降スペース

・飯山市では、過疎化の進む集落への生活路線等多くの赤字路線バスをかかえ、その補填額の確保が難しくなってくると予想され、公共交通機関のあり方について総合的な見直しに着手している（企画課）。
・バス運行会社である信州バスでも、多くの赤字路線をかかえているため、新幹線飯山駅開業後についても明るい見通しを持たず、積極的な運行計画の策定に着手できない。

付-2

1) 飯山駅乗降客数の推計・確認



■図表付. 2 新幹線飯山駅の駅勢圏

資料) 飯山市総合都市交通体系調査報告書, 平成 12 年 3 月

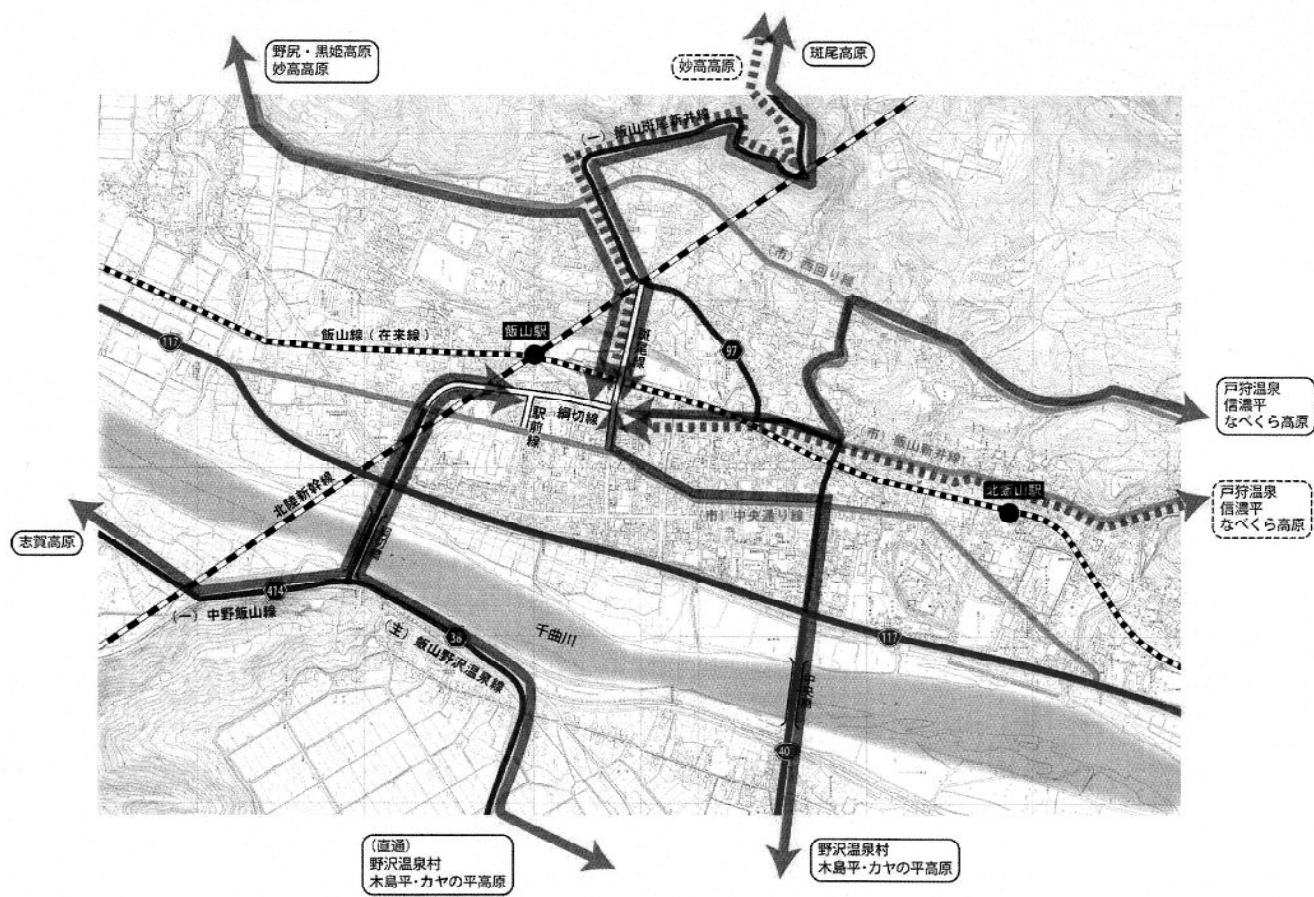
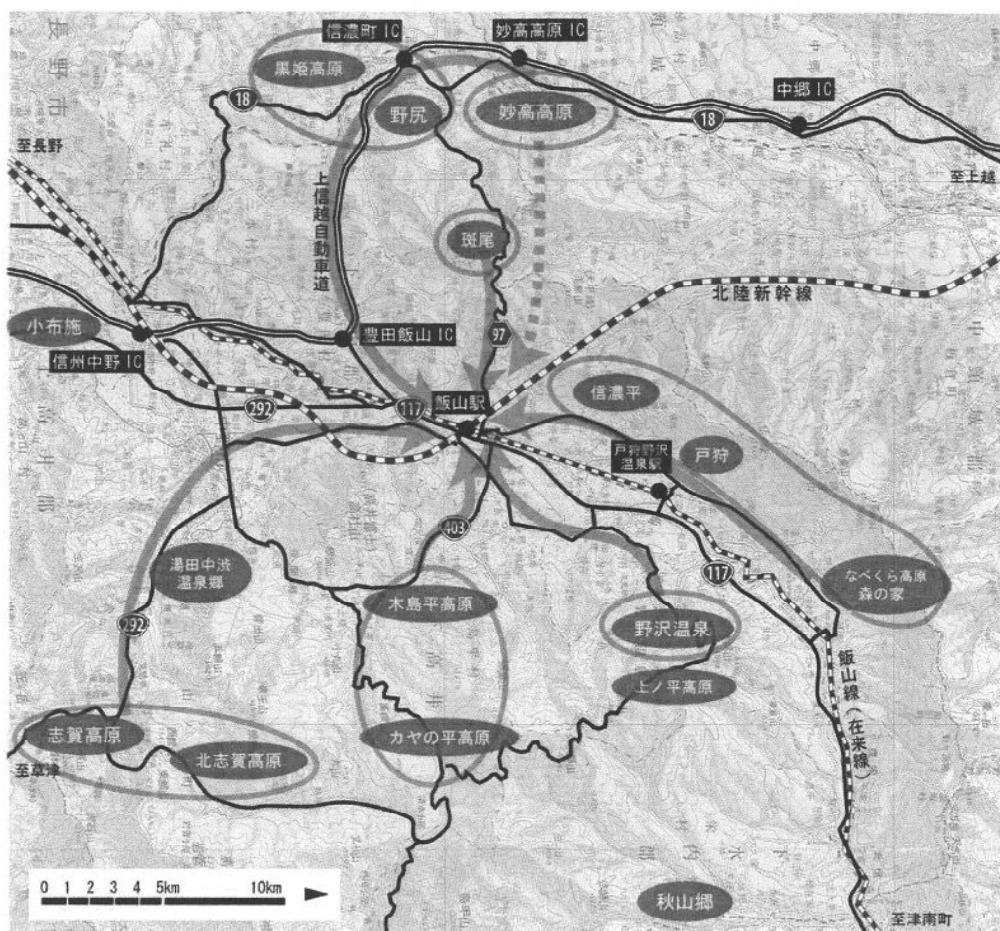
県名	市町村名	人口(人)	増減率	備考
長野県	飯山市	26,420	-3.7 %	北信
	須坂市	54,207	0.7 %	
	中野市	42,624	0.8 %	北信 2005.4 豊田村と合併
	上高井郡 小布施町	11,460	0.2 %	
	上高井郡 高山村	7,776	0.0 %	
	下高井郡 山ノ内町	15,900	-6.2 %	北信
	下高井郡 木島平村	5,513	-5.8 %	北信
	下高井郡 野沢温泉村	4,610	-4.5 %	北信
	上水内郡 信濃町	10,391	-8.5 %	
	上水内郡 牟礼村	7,536	0.1 %	2005.10 合併し飯綱町(新設)に
	上水内郡 三水村	5,526	-4.2 %	
	下水内郡 豊田村	5,221	-0.3 %	2005.4 中野市と合併し中野市に
	下水内郡 栄村	2,638	-8.9 %	北信
新潟県	中頸城郡 妙高高原町	6,685	-6.2 %	2005.4 新井市、妙高町と合併して妙高市に
	中頸城郡 中郷村	5,259	-5.6 %	2005.1 上越市と合併
	中頸城郡 妙高村	5,132	-6.6 %	2005.4 新井市、妙高高原町と合併して妙高市に
合 計		216,898	-	

注) 人口は、2000(平成12)年国勢調査人口。増減率は1995(平成7)年国勢調査人口との比較

備考欄に「北信」と記されている6市町村で「北信広域連合」を形成

飯山市以外の県内市町村は、市町村コード順

■図表付.3 周辺観光地から新幹線飯山駅までのアクセスルート



■図表付.4 新幹線飯山駅を利用する観光客数の推計

市町村	観光地名	利用者		日帰り 客数	延宿泊 客数	実宿泊 客数	実観光 客数	市町村 合計	複数 利用率	小計	鉄道利 用者数	他駅との競合	中計 (現状ペ-ス)	伸び率を 考慮合計	
		a=b+c	d	b	c	d←c	e=b+d	f	g	l=f/g	j=l*0.14	k	l=J+k	伸び率	10%
飯山市	飯山	164.9	140.7	24.2	8.1	148.8									
	斑尾高原	677.0	51.1	625.9	208.5	259.6									
	信濃平	33.0	8.0	25.0	8.3	16.3									
	戸狩温泉	417.1	101.9	315.2	105.0	206.9		763.2	1.6	477.0	65.8	A	63.8		70.2
	なべくら高原	28.9	17.7	11.2	3.7	21.4									
(旧豊田村)	北竜湖	126.4	102.1	24.3	8.1	110.2									
木島平村	斑尾高原	71.6	69.1	2.5	0.8	69.9		69.9	1.6	43.7	6.0	B	5.5		6.0
	木島平	227.5	84.7	142.8	47.6	132.3		174.8	1.2	145.6	43.7	A	43.6		48.0
野沢温泉村	カヤの平高原	46.1	40.7	5.4	1.8	42.5									
	野沢温泉	758.7	124.9	633.8	211.1	336.0		336.0	1.2	280.0	38.6	B	34.8		38.3
山ノ内町	志賀高原	2,982.1	663.1	2,319.0	772.5	1,435.6		2,037.2	1.6	1,273.3	175.7	D	75.5		83.0
	北志賀高原	1,236.2	284.7	951.5	317.0	601.7									
信濃町	野尻湖	520.4	415.6	104.8	34.9	450.5									
	黒姫高原	321.6	141.3	180.3	60.1	201.4		792.5	1.6	495.3	68	C	56.2		61.8
妙高市	タングラム斑尾	232.7	94.7	138.0	46.0	140.7									
	妙高高原	2,192.0	487.4	1,704.6	567.8	1,055.2		1,055.2	1.6	670.0	92.5	C	76.1		83.7
合計		10,036.2	2,827.7	7,208.5	2,401.2	5,228.9		5,228.9		3,385.0	490.7		355.5		391.0

注1) a:利用者延数は、日帰り客数と延宿泊客数の合計 データは下記資料①
c:延宿泊客数は1泊で2人(人日)、1泊2泊で3人(人日)という延べの滞在日数(単位:人日)
d:実宿泊客数は、1泊1泊で1人、1泊2泊でも1人、2泊2泊で2人という実数(単位:人)
dは、下記資料②に基づく北信濃地域の宿泊数(次のデータ)を用いて計算

北信濃地域の宿泊者の宿泊数は、
1泊(1人だとすると延2人に相当)が 40.3%
2泊(1人だとすると延3人に相当)が 37.0%
3泊(1人だとすると延4人に相当)が 13.8%
4泊(1人だとすると延5人に相当)が 8.9%

注2) g:複数利用率は、1人がいくつかの観光拠点を利用していることを想定した係数
観光地としての独立性等を考慮して、1.2、1.6、2.0の3段階で設定
h:鉄道利用者は、下記資料②に基づく北信濃地域の鉄道利用率(次のデータ)を用いて算出
鉄道だけ2.4%、鉄道とバス8.4%、鉄道とタクシー2.2%、鉄道とレンタカー0.8%
k:他駅との競合は、北陸新幹線の長野駅、上越駅との競合を考慮
A=1.0、B=0.9、C=0.8、D=0.5、ただし、「平成15年度飯山市総合都市交通体系調査(補完調査計画)」との整合性をとるため、一部微調整

資料 ①「平成15年観光地利用者統計調査結果」、長野県商工部観光課
②「宿泊観光客流動調査報告書」平成12年3月、長野県商工部観光課

新幹線飯山駅を利用する観光客数

391.0千人

■図表付. 5 飯山駅乗降観光客数に対する2次交通の考え方と、必要バス便数の推計

市町村	行先名	交通目的		現状の公共交通機関 (バス路線)	新幹線飯山駅開業時の公共交通機関 の考え方	ピーク月・飯山駅乗降観光客数推計										計画日の公共交通機関等分担					ピーク日における 飯山駅バス出発 (または到着) 台数等
		生活 業務	観光			飯山駅利 用の推計 観光客数 (千人)	飯山線利用 のため、飯 山駅で乗降 しない客数	飯山駅 乗降客 (千人)	ピーク 月率	ピーク 月	ピーク月 利用者数 P	計画日 利用者数 P×0.8/10	路線バス 等	乗合 タクシー	宿泊施設 送迎バス	徒歩 自転車					
飯山市	飯山市内離散集落 堀島、西大池、深沢、小菅等	◎	△	飯山市コミュニティバスが それぞれ週2日、2往復運行	飯山駅発着～市内離散集落行(バス①) 現状と同数程度のバス便の運行を想定	12.0	—	12.0	2月 雪害	52.5%	6.3千人	504人	252人	—	101人	151人	—	—	—	—	
	飯山市循環線	◎	△	飯山市コミュニティバスが 平日計8循環運行	飯山市街地循環(バス①) 現状と同数程度のバス便の運行を想定	28.0	—	28.0	8月	34.7%	9.7千人	776人	388人	116人	155人	—	—	—	—		
	斑尾高原 旧豊田村エリアを含む	◎	◎	飯山市コミュニティバスが 平日5往復、休日4往復運行	飯山駅発着～斑尾高原(タングラム斑尾等を含む)行 路線バス増補、シャトルバス導入、乗合タクシー導入	2.0	1.0	1.0	5月	20.6%	0.2千人	16人	8人	2人	3人	—	—	—	—		
	信濃平	◎	◎	信州バス小境線 平日6往復、休日5往復運行	飯山駅発着～ 信濃平・戸狩温泉・なべくら高原方面行	30.2	14.3	15.9	2月	18.4%	2.9千人	234人	117人	35人	47人	—	—	—	—		
	戸狩温泉	◎	◎	JR飯山線 毎日15往復程度運行 信州バス小境線平日6往復、休日5往復運行 信州バス温泉線平日5往復、休日4往復運行	現状と同数程度の路線バスの運行を想定 ただし、なべくら高原(終点)まで運行する バス便数を増補	2.0	1.0	1.0	9月	18.0%	0.2千人	14人	7人	2人	3人	—	—	—	—		
	なべくら高原	◎	◎	信州バス温泉線 週2日 2往復/日のみ運行	また乗合タクシーを導入	2.0	—	2.0	5月 寒の注意	42.6%	0.9千人	68人	バス開催時 臨時バスで対応	—	—	—	—	—	—	—	
木島平村	北竜湖	—	◎	— (葉の花祭開催日のみ循環バス運行)	飯山駅発着～木島平・カヤの平高原方面行	48.0	—	48.0	2月	24.3%	9.7千人	775人	387人	116人	155人	—	—	—	—		
	木島平	◎	◎	信州バス木島平線 平日6往復、休日4往復運行	現状と同数程度の路線バスの運行を想定 ただし、シーズン運行のシャトルバス(直行バス)導入 また乗合タクシーを導入	38.3	19.0	19.3	2月	20.1%	3.9千人	310人	155人	46人	62人	—	—	—	—		
	カヤの平高原	—	◎	— (なし)	飯山駅発着～野沢温泉行 現状と同数程度の路線バスの運行を想定 ただし、シーズン運行のシャトルバス(直行バス)導入 また乗合タクシーを導入	83.0	—	83.0	1月 2月	18.9% 21.0%	16.6千人	1325人	663人	199人	265人	—	—	—	—		
野沢温泉	野沢温泉	◎	◎	信州バス急行野沢温泉線、 (普通)野沢温泉線 合わせて平日17往復、休日16往復運行	飯山駅発着～野尻湖・黒姫高原方面行 シャトルバス(直行バス)導入 乗合タクシー(乗合E)導入	61.8	—	61.8	8月	27.0% 24.8%	16.0千人	1280人	640人	192人	256人	—	—	—	—		
山ノ内町	志賀高原	△	◎	— (なし)	飯山駅発着～志賀高原行	—	—	—	1月	18.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
信濃町	北志賀高原	△	◎	— (なし)	シャトルバス(直行バス)導入 乗合タクシー(乗合E)導入	—	—	—	2月	21.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	野尻湖	△	◎	— (なし)	飯山駅発着～野尻湖・黒姫高原方面行	—	—	—	8月	27.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	黒姫高原	△	◎	— (なし)	シャトルバス(直行バス)導入 乗合タクシー(乗合E)導入	—	—	—	8月	24.8%	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
妙高市	タングラム斑尾	△	◎	— (なし)	(送迎バスで対応、または飯山市斑尾高原行の バスの一部をタングラムまで延長運転させる)	—	—	—	1月	22.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	妙高高原	△	◎	— (なし)	飯山駅発着～志賀高原行 シャトルバス(直行バス)導入 乗合タクシー(乗合E)導入	83.7	—	83.7	2月	16.1%	13.5千人	1077人	538人	162人	215人	—	—	—	—		
合計						391.0	35.3	355.7													

(注) 「飯山線利用のため、飯山駅で乗降しない客数」は、飯山駅で乗り換え・野沢温泉駅乗降等を想定。数値は「平成15年度飯山市総合都市交通体系調査(補完調査計画)」を参照

■図表付. 6 新幹線飯山駅・在来線飯山駅の観光客以外の乗降客数および旅の交流拠点施設利用者数とその交通機関

利用目的別	利用者の 内 容	計画数量				飯山駅までの交通機関と機関別分担率の考え方									
		人 数	年間乗降客	平日平均 乗降客数	休日平均 乗降客数	休日ピーク日 乗降客数	バス	乗合 タクシー	タクシー	送迎 バス	レンタカー	マイカー	二輪	徒歩	その他
新幹線 駅乗降客数	観光	飯山駅周辺への 広域観光客													JR 在来線
		飯山からの通勤	195 人	$261 \times 2 \times 245 \text{ 日} =$											
		飯山への通勤	66 人												
	通勤	小計	261 人	127,890 人	522 人	0 人	0 人								
		飯山から	304 人	$380 \times 2 \times 365 \text{ 日} =$	$380 \times 2 =$	$380 \times 2 =$	$380 \times 2 =$	○		△		◎	○	◎	—
		飯山へ	76 人		$380 \times 2 =$			6.0 %		1.0 %	—	25.0 %	18.0 %	50.0 %	
在来線 駅乗降客数	遠距離 飯山地域からの 出張・旅行など	小計	380 人	277,400 人	760 人	760 人	760 人								
		関東方面へ旅行	143 人	$237 \times 2 \times 365 \text{ 日} =$	$237 \times 2 =$	$237 \times 2 =$	$237 \times 2 =$								
		北陸方面へ旅行	94 人		$237 \times 2 =$										
	合計（概数）	小計	237 人	173,010 人	474 人	474 人	474 人								
				578,000 人	1,800 人	1,200 人	1,200 人								
				日平均 3,360人											
交通 買物・業務 等			日平均 800人			○	—	△	—	◎	○	◎	—		
						6.0 %	1.0 %	25.0 %	18.0 %	50.0 %					
交流・学習 情報交換 買物等	飯山市および 周辺市町村在住者 ・周辺公共施設 利用者等	利用者数等 は今後検討					○	—	△	—	◎	○	◎	—	

注）駅端末の交通機関別分担率（観光客を除く）については、長野都市圏および飯山市のパーソントリップ調査に基づき設定している。
◎：中心的な役割を担う交通機関、○：一定の役割を担う交通機関、△：補完的な役割を担う交通機関
なおマイカーの25.0%のうち、パーク＆ライドが23.0%、キス＆ライドが2.0%と設定している。
乗合タクシーやレンタカーは「信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査」からの提案

資料）新幹線駅乗降客数、在来線駅乗降客数については、飯山市総合都市交通体系調査報告書、平成12年3月、飯山市

3) 現飯山駅の公共交通機関の現況 4) 新幹線飯山駅に導入する2次交通

○路線バス（生活路線を重視したコミュニティバスを含む）

あらかじめ設定された経路を定期的に運行するバス。主要観光拠点、主要施設、集落等を結び、観光目的、生活目的両面の乗客を輸送する。

既往の路線バスの他、新たな路線が開発される可能性もある。



○シャトルバス

交通ターミナルと、目的地（主要観光拠点）を直接かつノンストップで結ぶバス。



○乗合タクシー

同方面に向かう複数の乗客を輸送する。小型車輦や小型バスを用いることが多い。

利便性の高い乗合タクシーの導入により、個別宿泊施設からの送迎車両の出動回数をできるだけ軽減させる。



○レンタカー

冬期対応、オフロードおよび悪路対応等にも十分な備えを持つレンタカー。



○タクシー

○その他レンタサイクル

■図表付.7 路線バスの現在の運航状況 およびバス・乗合タクシーの運行計画

機関	路線バス（コミュニティバス含む）・シャトルバス	乗合タクシー
概要	○周辺の主要観光地、都市や集落・主要公共施設等と結ぶ公共（コミュニティバス）または民間バスである。	小型車両や小型バスにより、同方面に向かう複数組の乗客を輸送する。
現在の運行状況・交通量等	○飯山市コミュニティバス「菜の花バス」 [福島線] 週2日（平日の火・木）2往復運行 [西大滝線] 週2日（平日の月・木）2往復運行 [深沢線] 週2日（平日の火・金）2往復運行 [小菅線] 週2日（平日の水・金）2往復運行 [市街地循環線] 平日 計8巡回運行 [斑尾線] 夏期ダイヤでは毎日5往復（休日は4往復） 飯山駅では平日15～17回ずつ／日の発着がある。 ・民間路線バス（信州バス、委託路線を含める） [急行野沢温泉線（飯山駅経由～野沢温泉）] 毎日5往復 [野沢線（飯山駅～野沢温泉）] 毎日12往復 その他[木島平線][温泉線][小境線][小牧線][長沢線]を含め、飯山駅発着は50回ずつ／日程度	現在本地域には導入されていない。
新幹線飯山駅開業後の運行需要	○飯山駅の交通拠点性が高まるため、上記の主要都市や集落、公共施設と結ぶ路線の継続が望まれる。 ○別調査によると、新幹線開業時に飯山駅を利用する観光客数を観光地別に推計し、以下の観光地と結ぶシャトルバス需要を想定している。 [需要特大（ピーク時にシャトルバス2台必要）] ・妙高高原 ・志賀高原 ・野尻・黒姫 [需要大（ピーク時にシャトルバス1台必要）] ・木島平 ・野沢温泉 ・斑尾 ・戸狩 ○信州バスの対応は、現状では未定	○飯山駅周辺には妙高高原、志賀高原、野尻・黒姫等の他にも多様な観光地や観光拠点が存在し、「原風景ミュージアム」のサテライトやそのステーションを形成している。これらと円滑に結ぶ公共交通手段として乗合タクシーを導入する。 ○路線バスや定常的なシャトルバスルートにのらない「信濃平」「森の家」「カヤの平」等のサテライトと結ぶ交通手段として特に活用する。
新幹線飯山駅開業後の路線等の考え方	○飯山市コミュニティバス「菜の花バス」 ・斑尾線 現状路線を継続 ・斑尾線以外 デマンドバス化 ○主要路線バス ・木島平、野沢温泉方面行きの路線バスは継続運行（上記については、現行とほぼ同数と想定） ○以下の観光地へのシャトルバスを運行 シーズンにより、適切な台数の運行を図る。 ①斑尾方面 ②戸狩方面（場合によっては信濃平など） ③木島平方面 ④野沢温泉村方面 ⑤志賀高原方面 ⑥野尻・黒姫方面 ⑦妙高高原方面	○左記のシャトルバスと同じ観光地行きの乗合タクシー、およびよりきめの細かな運行ルート提供 ①斑尾方面 ②品野平・戸狩・なべくら高原方面 ③木島平方面 ④野沢温泉村方面 ⑤志賀高原方面 ⑥野尻・黒姫方面 ⑦妙高高原方面
備考	資料）飯山市総合都市交通体系調査	

5) 3カ所の交通広場の機能分担および駅周辺地区の運行ルート

■基本的分担案

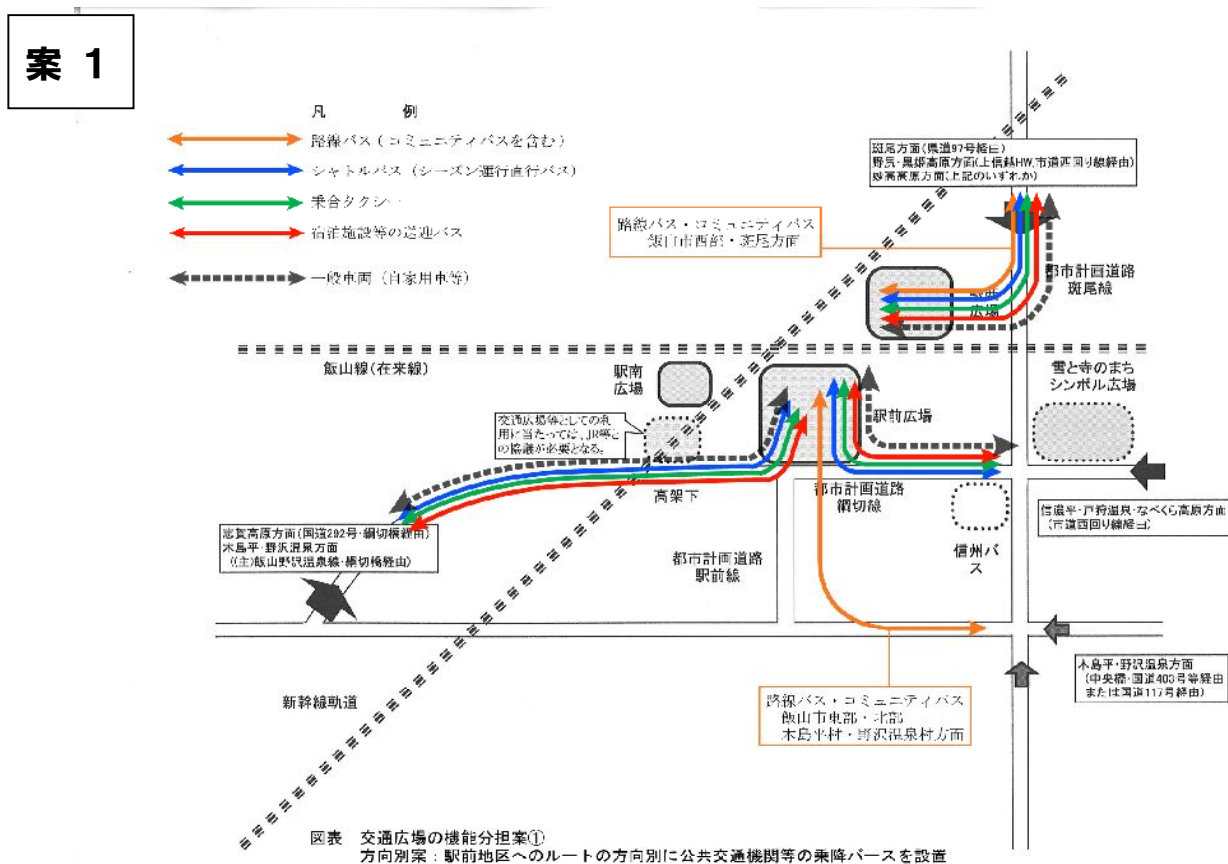
案1 方向別案 : 駅前地区へのルートの方角別に公共交通機関のターミナル化
一般車両(マイカー等)は駅前、駅西どちらでも利用可とする

案２ 交通機関別案：交通機関の種類別に公共交通機関等のターミナル化を図る
乗合タクシーについては駅西広場を基本ターミナルとする
一般車両（マイカー等）は駅前、駅西どちらでも利用可とする

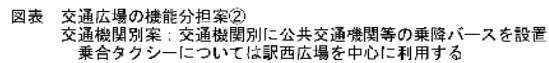
案 3 交通機関別案：交通機関の種類別に公共交通機関等のバースを設置
乗合タクシーについては駅前広場を基本ターミナルとする
一般車両(マイカー等)は駅西を基本バースとする

■図表付.8 交通広場の機能分担計画3案の具体的イメージ

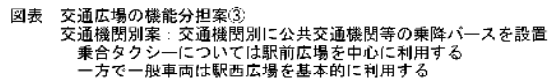
注) それぞれの広場の詳細な出入りルートについては別途検討が必要



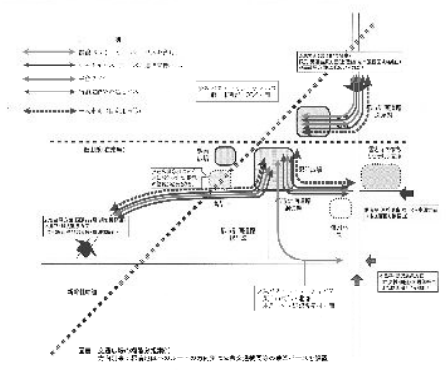
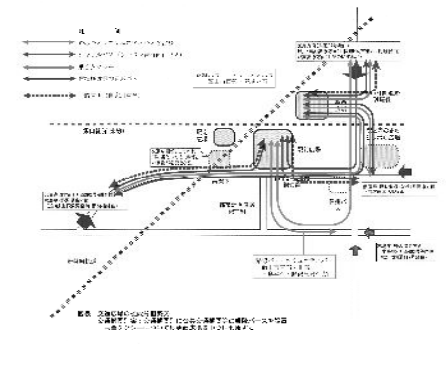
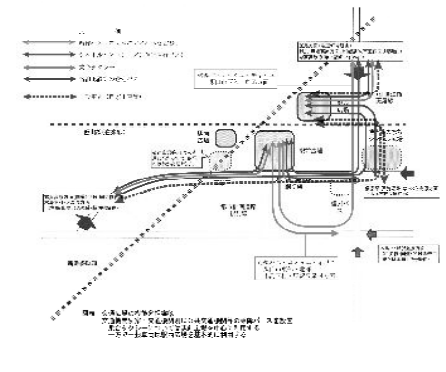
案 2



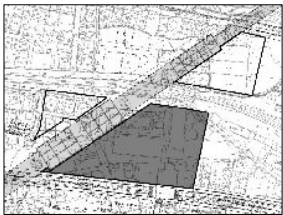
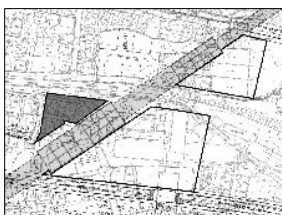
案 3



■図表付.9 交通広場の機能分担計画3案の評価

	分 担 イ メ ー ジ	交通広場別に担う交通	評価（わかりやすさや円滑性）
① 方向別案		【駅前広場】 ・志賀高原方面、木島平・野沢温泉方面（綱切橋～飯山野沢温泉線経由・直行便および中央橋や国道117号経由）、信濃平・戸狩温泉・なべくら高原方面の路線バス、シャトルバス、乗合タクシー、宿泊施設等の送迎車輛 ・一般タクシー ・一般車両（マイカー等）キス&ライド 【駅西広場】 ・斑尾方面、野尻・黒姫高原方面、妙高高原方面の路線バス、シャトルバス、乗合タクシー、個別宿泊施設等の送迎車輛 ・レンタカー ・一般車両（マイカー等）キス&ライド、パーク&ライド	・方向別のため、それぞれの運行ルートは最も短くなる。 ・行く先の方向を熟知している人や慣れた人であれば容易に目的の交通機関の乗降バースに到達できるが、初めてこの地を訪れるような旅人等にとってはわかりにくい。 ・バスターミナル等が分散配置されるため、施設配置上・運用上も効率的でない。
② 交通機関別案		【駅前広場】 主として公共交通を捌く広場とする。 ・方向を問わず、全ての路線バス、シャトルバス ・一般タクシー ・一般車両（マイカー等）キス&ライド 【駅西広場】 主としてプライベートな交通を捌く広場とする。 ・方向を問わず全ての乗合タクシー ・方向を問わず全ての個別宿泊施設等の送迎車輛 ・レンタカー ・一般車両（マイカー等）キス&ライド、パーク&ライド	・いくつかのルートでは、飯山駅前地区の中で遠回りを余儀なくされる。 ・利用者にとっては、乗降予定の交通機関の乗降場所を把握しやすく、円滑に目的場所に到達することができる。 ・交通機関別に、バースを共有するなど、施設配置上・運用上効率的である。 ・個別宿泊施設等の送迎車輛用バースについても比較的広いスペースを確保可能と考えられる。
		【駅前広場】 主として公共交通を捌く広場とする。 ・方向を問わず、路線バス、シャトルバス ・志賀高原方面、木島平・野沢温泉方面、信濃平・戸狩温泉・なべくら高原方面等、乗合タクシー ・一般タクシー 【駅前広場】 主としてプライベートな交通を捌く広場とする。 ・方向を問わず全ての個別宿泊施設等の送迎車輛（場合によっては一部乗合タクシー） ・レンタカー ・一般車両（マイカー等）キス&ライド、パーク&ライド	同 上 ・一般車両（マイカー等）のキス&ライドを駅西広場とすることで、駅前広場の公共性がより明確になり、交通処理が容易となる。（なお利便性を考慮して、季節や時間によっては、駅前広場における一般車両のキス&ライドができるようにすることも考えられる）

■図表付. 10 有力案（案3）における広場別交通機関分担のまとめ

項目	駅前広場	駅西広場	駅南広場
			
広場の位置特性	- 区画整理事業の中心部に位置し、既存の中心市街地方向に面するとともに、広域幹線道路となる国道へのアクセスに優れている。 - 市内および広域の「観光軸（もてなしゲートウェイ）」ともなる綱切線や、「生活軸」となる駅前線に直面する。	- 在来線（JR 飯山線）の西側に位置する。将来のための多目的用途の開発地に位置する。 - 市街地西側や斑尾方面へのアクセスルートとなる「斑尾線」に取付道路で直接結ばれる。	- 駅南方向の閑静な住宅地に直面する。 「観光軸」となる綱切線とは取付道路で直接結ばれる。
交通広場としての性格づけ	北信州の玄関口としての機能を担う中心的広場。広域の市町村、観光地と結ぶ公共交通機関の交通ターミナル	駅前広場の機能を補完する広場。パーソナルユースの交通ターミナル	周辺住民のための交通ターミナル
	【交通目的】 - 通勤・生活交通、業務交通、観光交通等多目的交通 【対象地域】 - 市内全般 - 駅勢圏となる広域市町村 【対象車両】 - 公共交通機関を中心とする。 【対象となる徒歩利用の乗降客】 - 広場に近接する住民 - 飯山赤十字病院等の公共施設を利用する住民 - 寺町や飯山城址を訪れる観光客	【交通目的】 - 駅前広場と同様（駅前広場を補完する） 【対象地域】 - 市内全般（特に斑尾等を含めた市内西側地域） 【対象車両】 - 自家用車、業務用車両を中心とする。 【徒歩利用の乗降客】 - 広場に近接する住民 - 図書館、ふるさと学習館、中央公民館等の公共施設を利用する住民、観光客	【交通目的】 - 通勤・生活交通が中心 【対象地域】 - 駅南側 【対象車両】 - 自家用車（周辺住民を対象） 【徒歩利用の乗降客】 - 広場に近接する住民
自家用車・業務用車両	季節や時間によっては一時停車ができるようにする。	- 一時停車（キス&ライド） - 駐車	一時停車（周辺住民のキス&ライド等のみ）
バス	・各方面の路線バス、シャトルバスバース	—	—
乗合タクシー	・各方面への乗合タクシーバース	・一部方面へのバース	—
タクシー	・タクシーバース	—	—
送迎車両	—	・受け入れ	—
レンタカー	—	・レンタカーステーション	—

6）バスおよび乗合タクシー等の乗降スペース（案）

■バス

主として地域住民等を対象とした路線バス、および観光客を対象としたシャトルバス（直行バス）の必要スペースについて検討

（１）乗車バスと降車バスの区別について

乗降客が混乱なく、しかも短時間に乗降を行いながら、交通広場においてバスが円滑に発着できるようにするため、本来ならばバス乗車バスと降車バスは別々に設けることが望ましいとされている（駅前広場計画指針等）。このため可能であれば（スペース的に余裕があれば）、路線バスについては乗車バスと降車バスを分ける。

一方、飯山駅で想定される観光客を対象としたシャトルバスについては、出発バス（したがって乗車バスが必要となるバス）は午前の便に集中するが、到着バス（したがって降車バスが必要となるバス）は午後の便に集中する等、時間的な変動が大きいと考えられる。効率的なスペースの活用を図るため、シャトルバスについては、必要に応じて系統別（方面別）には分けるものの、乗車バスと降車バスについては分けないこととする。

（２）路線バスバス

デマンドバス化が想定されている飯山市内コミュニティバスを除くと、コミュニティバス斑尾線、信州バス木島平・野沢温泉村方面行き路線の合わせて 60～70 便程度と想定される。

計画諸元 ・計画日出発バス便数 60～70 便
・ピーク時出発バス便数 10 便程度

$$\begin{aligned}\text{必要乗車バス数} &= \text{ピーク時出発バス便数} \times \text{バスサービス時間(分/便)} \div 60 \text{ 分} \\ &= 10 \text{ 便} \times 5 \text{ 分} \div 60 \text{ 分} \\ &= 1 \text{ バス}\end{aligned}$$

注) バスサービス時間は、日本交通計画協会編「駅前広場計画指針」を参考にしている。

（３）シャトルバスバス

【季節変動に対する対応方針】

別図表に示すように、飯山駅をゲートウェイとする周辺の観光地においては8月をピーク月とするところ（野尻湖・黒姫高原など）と、2月をピーク月とするところ（志賀高原、野沢温泉村など）に分かれる。したがってこれらを組み合わせて、効率的にバス活用することが望まれる。

【必要バス数】

ピーク月の2月を想定して必要バス数を算出する。

計画諸元 ・計画日出発バス便数

妙高高原行き：約 14 台

斑尾高原行き：路線バスとの分担、約 5 台と想定

戸狩温泉行き：飯山線（戸狩野沢温泉経由）と分担、約 3 台と想定

木島平行き：約 10 台

野沢温泉行き：約 4 台

志賀高原行き：約 17 台

合計：約 53 台

・ピーク時出発バス便数 約 15 便

観光客（スキー客）は午前 9～12 時頃に集中すると想定。

計画日出発バス便数×0.2～0.3 として算出

$$\begin{aligned}\text{必要バース数} &= \text{ピーク時出発バス便数} \times \text{バスサービス時間(分/便)} \div 30 \text{分} \times \\ &= 15 \text{便} \times 5 \text{分} \div 30 \text{分} \\ &= 2 \text{バース}\end{aligned}$$

注) ※ 新幹線等到着に合わせてシャトルバスを運行。新幹線等乗降客が短時間＝約 30 分間でシャトルバスに乗り換えられるように想定している。

（４）系統別バス・バース数

以上に基づき、系統別バスバース案を検討した。一案を以下に示す。

第 1 バース：妙高高原・野尻黒姫・斑尾方面（斑尾線経由方面）

- ・飯山市コミュニティバス「菜の花バス」斑尾線
- ・以下、観光シーズンによって適宜台数を増減して運行するシャトルバス
妙高高原行き
野尻・黒姫行き
斑尾行き

第 2 バース：飯山市内各地、木島平・野沢温泉方面路線バス

- ・飯山市コミュニティバス「菜の花バス」の上記以外の路線（デマンドバス）
- ・木島平・野沢温泉方面行き路線バス
- ・以下、観光シーズンによって適宜台数を増減して運行するシャトルバス
戸狩行き（場合によっては信濃平行き）
木島平・野沢温泉行き

第 3 バース：志賀高原、木島平・野沢音施方面

- ・主として観光シーズンによって適宜台数を増減して運行するシャトルバス
志賀高原行き
木島平・野沢温泉行き（第 2 バースと併用）

前述したように、路線バス降車バースについては別途設けることが望ましいが、スペース的に余裕がなければ、第 3 バース（シャトルバスバース）を活用することも考えられる。

■乗合タクシー

別図表に示すように、飯山駅をゲートウェイとする周辺の主要観光地の方向別に配置することとする。合計で3～4バース程度設けることが望ましい。

■タクシー

乗車用タクシーバース、降車用タクシーバースと、待機用のタクシープールを然るべき台数分設ける。

ただし現飯山駅前にタクシー会社の営業所（駐車場）も設置されており、そこからの配車等を行いながら、効率的なスペース運用を図る。

■送迎車輛

宿泊施設等観光事業者の要望は大きい（前回提示したアンケート調査結果および信州菜の花地域ウェルカムプラン策定調査委員会における意見）。こうしたニーズに即して、送迎車輛用のバースを一定程度確保する。

■その他

キス&ライド用バース、パーク&ライド用駐車場（北信広域連合等によって運営、最終的に500台を想定）を配置する。

付属資料 3. 北陸新幹線他駅の駅前広場の諸元と利用状況

■図表付. 11 北陸新幹線他駅の乗降客数と交通広場の施設概要

駅 名		安中榛名駅		軽井沢駅			佐久平駅			上田駅			参考資料
所在都市 (平成17年人口)		群馬県安中市 (48,388人)		長野県北佐久郡軽井沢町 (17,972人)			長野県佐久市 (100,035人) ※1			長野県上田市 (121,596人)			a
整備手法		駅周辺整備事業		駅周辺整備事業			土地区画整理事業			市街地再開発事業(お城口) 駅前整備事業(温泉口)			b
在来線との連絡		無し (新幹線単独駅)		しなの鉄道			JR小梅線			しなの鉄道、上田交通			b
計画乗降客数		①2,000人/日 ②3,280人/日 ③10,780人/日		16,000人/日			13,550人/日			28,000人/日			c
乗降客数 (2004年度 J R のみ)		199人/日		2,385人/日			2,708人/日			2,743人/日			d
広場内施設	駅前広場名称	南口		北口		南口	蓼科口		浅間口	お城口		温泉口	b
	駅前広場面積	8,500㎡		5,750㎡		4,900㎡	10,500㎡		4,000㎡	8,800㎡		6,000㎡	
	バス乗降場	4 台					4 台		3 台				
	バス駐車場	4 台					0 台		0 台				
	タクシー乗降場	7 台					4 台		1 台				
	タクシー駐車場	35 台					—		—				
	一般車乗降場	1 台					3 台		2 台				
	一般車駐車場 (自動車整備場)	15 台					21 台 (蓼科口自家用車整備場)		13 台 (浅間口自家用車整備場)				
駅周辺施設 ※2	駐車場名称	南側	北側	北口西側	北口広場	南口広場	開発公社第1	開発公社第2	開発公社第3	お城口	お城口第2	温泉口	b
	収容台数(台)	133	620	220	16	19	368	274	30	270	240	49	

※1 平成17年4月1日、白田鳥、望月町、浅科村と合併

※2 公営駐車場のみを掲載

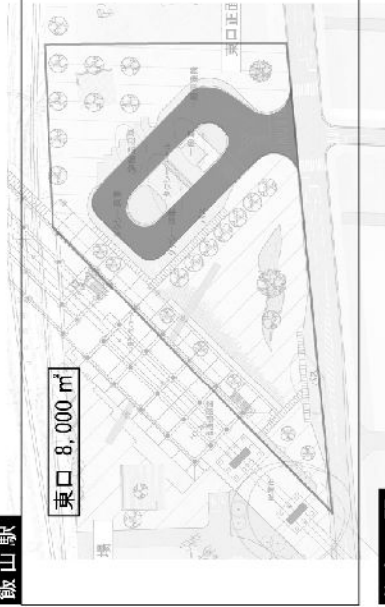
a) 平成17年版 全国市町村要覧

b) 駅前広場・立体駐車場概略設計(新幹線駅事例調査報告書)平成13年4月

c) 飯山市資料「新幹線駅前広場計画に関するアンケート調査結果」

d) 東日本旅客鉄道(株)2004年度乗車人員 1日平均の乗降客数

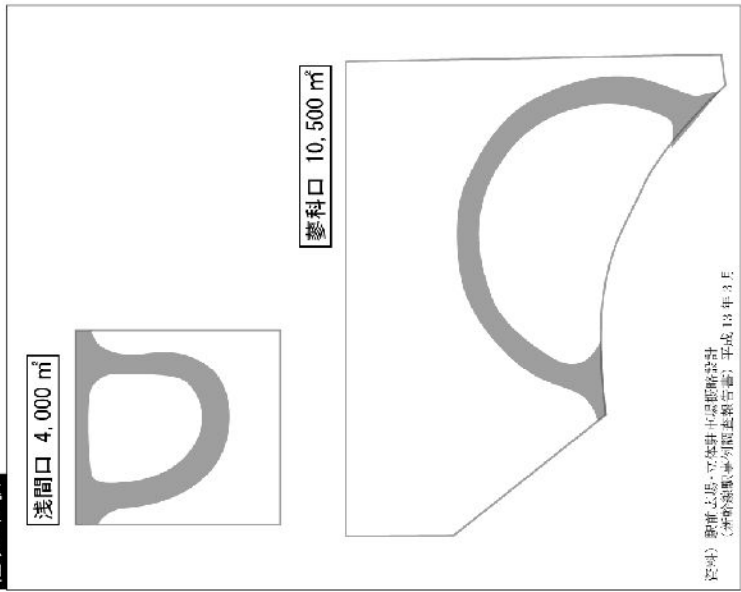
飯山駅



東口 8,000 m²

西口

佐久平駅

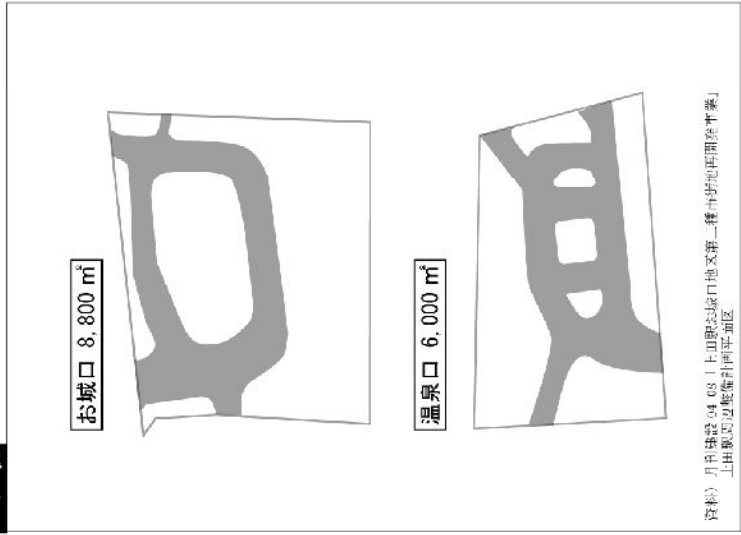


浅間口 4,000 m²

蓼科口 10,500 m²

資料）駅前広場・立体駅立地概要設計
（新幹線駅平河調査報告書）平成13年3月

上田駅

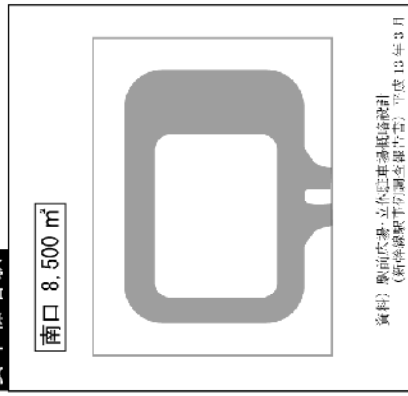


お城口 8,800 m²

温泉口 6,000 m²

資料）月形建設04-08「上田駅お城口地区第一種市街地開発事業」
上田駅周辺地区開発計画図

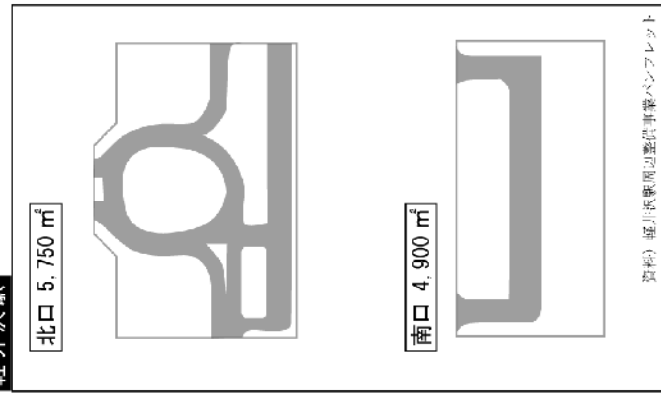
安中榛名駅



南口 8,500 m²

資料）駅前広場・立体駅立地概要設計
（新幹線駅平河調査報告書）平成13年3月

軽井沢駅



北口 5,750 m²

南口 4,900 m²

資料）鹿川系駅周辺整備事業パンフレット

